

新城市民病院 看護提供方式

継続受け持ち制 + 固定チームナーシング

1 新城市民病院の看護提供方式とは

入院患者への看護は、24 時間体制で行われます。しかし、看護師ひとりの力では、看護が継続できるわけではありません。そこで看護サービスを十分提供ができるように、複数の看護師がチームを組んで看護を行います。その役割分担の方法を決めるのが看護方式です。

看護方式には様々な種類があり、「チームナーシング」「プライマリーナーシング」「機能別看護方式」等があります。新城市民病院は、これまで機能別看護方式やチームナーシング等が混在しているような状況でした。看護師の人数が少ない時など、業務を正確に受け持つ方法としては、機能別看護方式は、効率的です。しかし、患者さんの問題や、治療経過に対する責任が弱く、リーダーに責任の比重が高くなることもあります。また最近では、モジュール型看護方式（継続受け持ち制+固定チームナーシング）を部署独自に行った経緯があります。「わたしの看護師 わたしの患者さん」といった患者に寄り添う看護、あるいは看護の責任をだれもが受け持つ方式として行いました。

当院の看護師はベテランも多く、成熟した看護実践が可能です。看護に責任をもって、ひとりひとりの患者さんと向き合った看護が遂行できるよう「継続受け持ち制+固定チームナーシング」の看護提供方式を確立したいと思います。自立度が高くても低くても患者さんの苦痛や訴えに耳を傾け、問題を解決することに責任を果たすことを受け持ち看護師に求めます。

2 継続受け持ち制+固定チームナーシング

1つの看護単位を2～3のチームに分け、各チーム内で患者さんと看護師が1対1で向き合い、入院から在宅までの継続した看護に責任を持ちます。そして、患者さんや受け持ち看護師をチーム全体がバックアップする看護体制です。チームメンバーは、8人から12名、各年代や経験によって看護師をチーム分けします。メンバーは、各患者2名から3名の受け持ち（日常業務においては他のスタッフのフォローを含め、4から6名を担当）、各チームリーダーは主にチームスタッフの教育と助言にあたります。このように、チーム力を活かして、お互いをフォローしあいながら、患者さんに必要な看護を提供できる方式を推進します。

3 概念図

